

2025年度「日常生活の法律問題」学習レポート

提出者：学籍番号・氏名記入欄

2026年1月11日

レポート課題：現代社会における法律問題の考察

本レポートでは、2025年度の最新ニュースを題材に、講義で扱った「日常生活の法律問題」の諸概念（氏、知的財産権等）を適用し、法的観点から考察を行う。

1 テーマ1：選択的夫婦別姓制度を巡る議論

1. ニュース名

経済界からの提言を受けた、選択的夫婦別姓の導入に向けた民法改正の国会議論

2. 概要

2024年から2025年にかけて、経団連等の経済団体から「旧姓使用の限界」によるビジネス上の不利益を理由に早期導入を求める提言が相次いだ。これを受け、国会では民法第750条（夫婦同氏の原則）を改正し、希望する夫婦が別々の氏を名乗れるようにする具体的な法案審議が活発化している。

3. 講義と関連

- **民法第750条**：我が国の民法は「夫婦は、婚姻の際に定めるところに従い、夫又は妻の氏を称する」と規定しており、婚姻の成立要件として氏の一致を求めている。
- **最高裁判所の判断**：講義資料に示された通り、最高裁大法廷は平成27年および令和3年に、夫婦同氏制度を「憲法に違反しない」と判断している。
- **戸籍制度の歴史**：明治期（明治4年）の戸籍法制定以来、国家は社会構成員を管理する手段として戸籍を利用しており、氏の統一はその管理の基盤となっている（第14回講義）。
- **実務上の課題**：日本人と外国人の夫婦の子の氏に関する裁判例（東京家審H4.6.22）など、氏の不一致がもたらす法的帰属の複雑さが講義で示された。

4. 自身の評価

私は、選択的夫婦別姓制度の導入には慎重であるべきだと考える。講義で学んだ通り、日本の戸籍制度は家族を一つの単位として社会を管理・公証してきた歴史的意義がある。最高裁が合憲と判断し続けているのは、家族が同一の氏を称することによる社会的な安定や一体感という公益を重視しているからだと理解できる。個人の利便性という利益も重要だが、安易な導入は、講義で紹介された「子の氏」の帰属を巡る混乱を国内の多くの家庭に広げるリスクがある。家族の同一性を守る現行制度の公共的役割を維持すべきである。

2 テーマ2：知的財産権の保護と存在意義

1. ニュース名

生成AIの急速な普及に伴う、著作権法の抜本的見直しと「知的財産不要論」を巡る国際的論争

2. 概要

2025年、生成AIが膨大な著作物を無断で学習し、高精度な成果物を出力する事態に対し、「過度な知財保護はイノベーションを阻害する」とする知財不要論と、「創作者の権利と対価を保障すべき」という保護派の意見が対立した。特にAI開発競争を優先する観点から、一部で「知的財産権の保護緩和」を求める声が高まった。

3. 講義と関連

- **特許法の目的（特許法第1条）**：「発明の保護及び利用を図ることにより、発明を奨励し、もって産業の発達に寄与すること」を目的とする。保護があるからこそ産業が発達するという論理である（第10回講義）。
- **著作権の独占権**：著作権者は複製権や送信可能化権を独占しており、無断利用は原則として侵害となる。講義では、ゲーム動画の配信等が著作権法違反になり得る点が示された（第9回講義）。
- **職務発明の対価（特許法35条）**：発明をした従業員は「相当の利益」を受ける権利を有しており、保護がない世界はこの正当な報償システムをも否定することになる。
- **侵害立証の困難性**：「放置少女事件（東京地判R3.2.18）」の事例では、ソースコードの複製が認められず請求が棄却された。権利が存在していても保護が不十分になりやすい現状が示されている。

4. 自身の評価

私は「知的財産の保護はいらない」という意見には反対である。特許法第1条が掲げる産業の発達は、創作者に一定期間の独占権というインセンティブを与えることで初めて実現される。不法行為の理念である「損害の公平な分担（第11回講義）」の観点からも、他人の多大な努力に無賃乗車して利益を得ることは著しく不公平である。技術発展のための「利用」の側面も重要だが、その前提として、創作者が「相当の利益」を得られる保護の枠組みを維持することが、社会の公正な競争と持続的な発展に不可欠であると評価する。

付録：試験対策用計算問題メモ

- **訴訟コストの合理性（第2回）**：勝訴額200万円、訴訟費用40万円、和解費用10万円の場合、原告が訴訟を選択する合理的な境界線は提示額170万円以下（ $200-40+10$ ）。
- **領収証と印紙（第5回）**：5万円（税別）未満の領収証には収入印紙の貼付は不要。
- **解雇予告（第6回）**：30日前の予告または平均賃金の30日分以上の予告手当が必要。